

2025年5月8日

報道関係者各位

インスメッド合同会社

—毎年5月9日は「呼吸の日」—
**長引く咳や痰(たん)の症状を自覚しながら放置する未受診が約5割
中高年女性に増加する「肺NTM症」「気管支拡張症」の認知度は2割以下**

インスメッド®合同会社(以下「インスメッド」、本社:東京都千代田区)は、肺非結核性抗酸菌症(以下「肺NTM症」と気管支拡張症を含む感染症および呼吸器疾患に関する一般の方々の意識や行動を把握することを目的として、咳や痰の症状が一週間以上続いている、もしくは咳や痰の症状により病院を受診した30代から70代の男女1,030名(男性515名、女性515名)を対象に2024年11月29日(金)~12月2日(月)の期間、オンライン形式でアンケートを実施しました。

その結果、咳や痰の症状を自覚しながらそのままにされている実態が明らかになりました。また、近年、日本において罹患者数/死亡者数が増加傾向にある「肺NTM症」、「気管支拡張症」についてあまり認知されていないことがわかりました。

<咳や痰の自覚症状があっても放置されている>

まず、気になる症状に咳や痰があると回答した方(咳:男性76.3%、女性78.4%、痰:男性57.1%、女性54.8%)のうち、医療機関を受診していない人は、咳の症状では、男性56.5%、女性49.5%、痰の症状では、男性57.1%、女性55.0%でした。また、未受診の理由で最も高い理由は、「病院に行くほどではない」が男性81.7%、女性75.9%でした。

<「肺NTM症」「気管支拡張症」認知度の低さ>

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症については、男女ともに90%以上の認知度でしたが、肺NTM症の認知度は、「知っている」が男性7.6%、女性9.9%、気管支拡張症の認知度は、「知っている」が男性14.8%、女性17.1%とインフルエンザと新型コロナウイルス感染症に比べて著しく低いことがわかりました。

<「5月9日」は呼吸の日。咳や痰が2週間以上続いたら、放置せず医師に相談しましょう>

肺NTM症と気管支拡張症の診療、研究に長年携わっている慶應義塾大学医学部 感染症学教室の長谷川直樹先生からは、「肺NTM症と気管支拡張症は、ともに慢性かつ進行性の呼吸器疾患です。また、はっきりとした原因は分かっていませんが、中高年のやせ型の女性に多いと言われています。疾患名やその特徴について認知度が低いため、長引く風邪の症状と勘違いされ、受診につながらないことが多いです。咳や痰は、肺からの危険信号です。結核などの疾患を疑う必要もありますので、疾患の早期発見と診断、適切な診療が重要です。これが慢性化や増悪を防ぐことにつながります。2週間以上続く咳や痰、疲れやすい、



体重減少、眠れないなど、日常生活に支障を感じたら、放置せず医師に相談してください」とのメッセージです。
肺 NTM 症とは・・・

非結核性抗酸菌(Nontuberculous Mycobacteria、以下「NTM」)という細菌が肺に感染することにより発症する感染症です¹。2014年に日本で実施された調査によれば、人口10万人あたりの罹患率は2007年の全国調査と比較して約2.6倍増加し、現在では肺結核をしのぐ罹患者数となっています^{2,3}。また特に日本を含む東アジアでは、肺NTM症の人口比が、米国や欧州と比較して多いとされています^{4,5}。肺NTM症の主な症状として、咳嗽(がいそう)、喀痰(かたん)、血痰(けつたん)、倦怠感、体重減少などが挙げられますが、症状の程度や病気の経過は患者さんによって様々です。厚生労働省の人口動態調査(2022年)では、国内で肺NTM症による死亡者数が年間1,158人であったと報告されており⁶、罹患者数、死亡者数ともに増加の一途をたどっている深刻な疾患です。

気管支拡張症とは・・・

気管支拡張症は、炎症、感染、気道粘液クリアランスの異常、肺組織損傷などが相互に関連しながら気管支が不可逆的に拡張する重篤な慢性肺疾患です。症状としては、慢性の咳嗽、過剰な喀痰、息切れ、呼吸器感染の繰り返しなどがあり、呼吸機能を次第に悪化させます。この疾患では、増悪と呼ばれる抗生物質による治療や入院を必要とする病状の急性の悪化が頻繁に起こることが特徴です。増悪を起こさないようにすることが病気を進行させないために重要です。

¹ 佐々木結花 編. 結核・非結核性抗酸菌症を日常診療で診る. 羊土社; 2017.

² Namkoong H, et al. Emerg Infect Dis. 2016;22(6): 1116-1117.

³ 日本医療研究開発機構. プレスリリース:呼吸器感染症を引き起こす肺非結核性抗酸菌症の国内患者数が7年前より2.6倍に増加—肺結核に匹敵する罹患率—. https://www.amed.go.jp/news/release_20160607-02.html (last accessed 2022.02.25)

⁴ Adapted with permission of the American Thoracic Society. Copyright © 2020 American Thoracic Society.

⁵ Adjemian J, et al. Am J Respir Crit Care Med. 2012; 185(8): 881-886.

* The American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine is an official journal of the American Thoracic Society

⁶ 政府統計の総合窓口 e-Stat. 人口動態調査 / 人口動態統計 確定数 死亡(2022年). https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450011&tstat=000001028897&cycle=7&year=20220&month=0&tclass1=000001053058&tclass2=0000101053061&tclass3=000001053065&stat_infid=000040098339&result_back=1&tclass4val=0 (last accessed 2024.3.21)

調査の概要および結果の詳細は以下をご確認ください。

【調査概要】

調査時期: 2024年11月29日(金)～12月2日(月)

調査方法: インターネット調査

対象地域: 47都道府県

調査目的: 肺NTM症、気管支拡張症を含む感染症および呼吸器疾患に対する意識、医療機関受診の有無、症状があることで発生する困りごとなど、実態把握および啓発のため

調査対象者: 調査時点で咳や痰の症状が一週間以上続いている、もしくは咳や痰の症状により病院を受診した30～70代(男女各515名、計1030名)



※図の構成比(%)は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%にならない場合があります。

【調査結果 詳細】

■最近気になっている症状

Q:あなたが最近気になっている症状としてあてはまるものを全てお答えください。

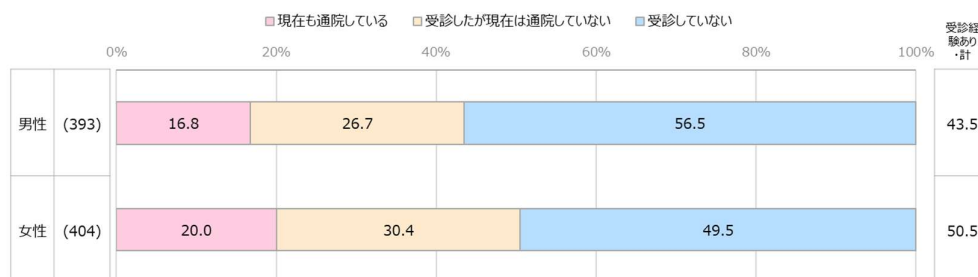
咳(男性 76.3%、女性 78.4%)と痰(男性 57.1%、女性 54.8%)が気になる症状として、上位にあがった。



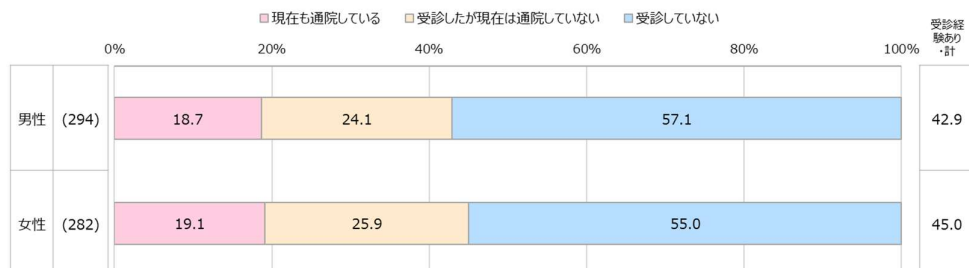
■医療機関受診の有無

Q:前問で“最近気になる”とお答えになった症状について、あなたはその症状があるために医療機関を受診しましたか？ また、受診した方は現在も通院していますか？（咳と痰を抜粋）

【咳】男性 56.5%、女性 49.5%が医療機関を「受診していない」と回答した。



【痰】男性 57.1%、女性 55.0%が医療機関を「受診していない」と回答した。

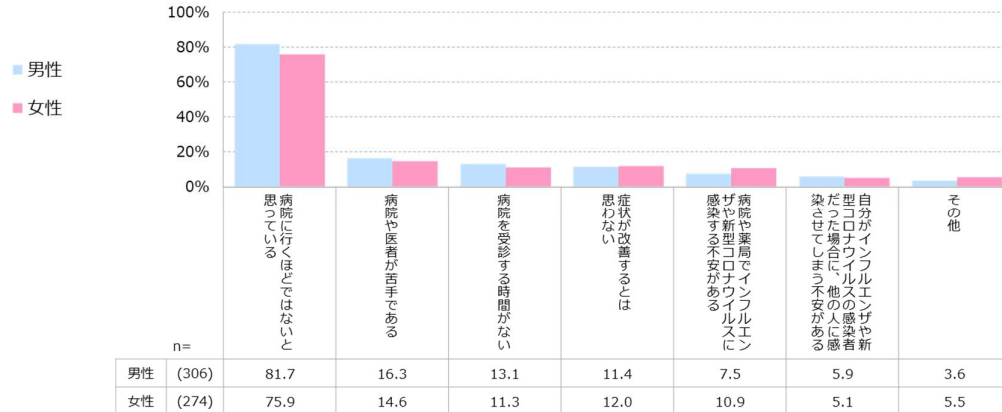


■医療機関未受診の理由

Q:“咳・痰があっても医療機関を受診していない”とお答えの方にお聞きます。

医療機関を受診していない理由について、あてはまるものをすべて選択してください。

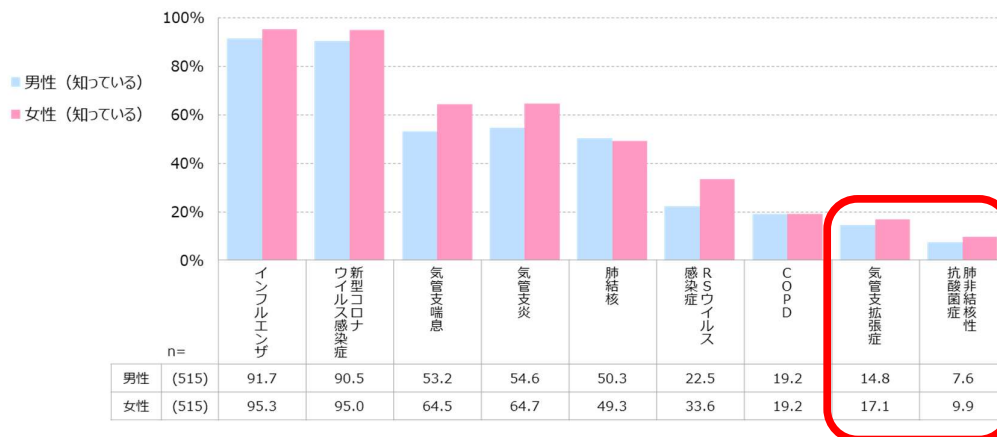
「病院に行くほどではないと思っている」が男女ともにトップであった(男性 81.7%、女性 75.9%)。



■感染症・呼吸器疾患の認知度

Q:以下の感染症・呼吸器疾患について、知っているものを選択してください。

「インフルエンザ」と「新型コロナウイルス感染症」は、男女ともに 9 割以上の認知度(インフルエンザ:男性 91.7%、女性 95.3%、新型コロナウイルス感染症:男性 90.5%、女性 95.0%)であるのに対し、「肺 NTM症」と「気管支拡張症」の認知度は低い(肺 NTM 症:男性 7.6%、女性 9.9%、気管支拡張症:男性 14.8%、女性 17.1%)。

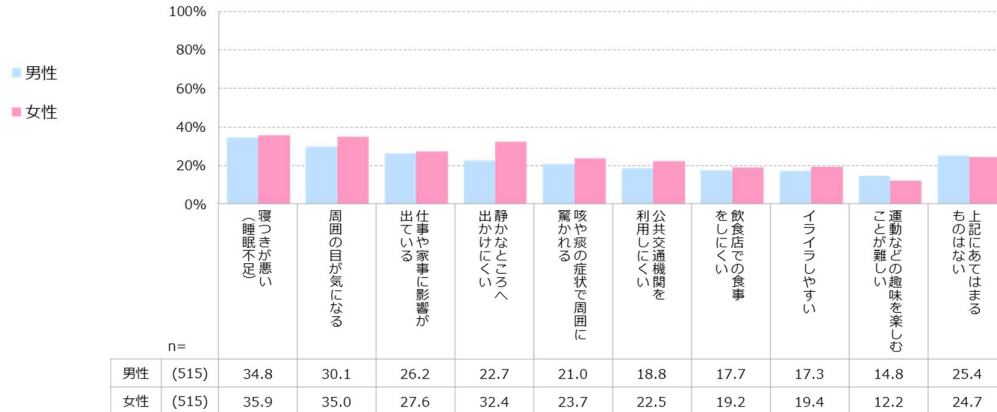


■症状での困りごと

Q:咳や痰の症状があるためにお困りになっていることについて、あてはまるものをすべて選択してください。

男女ともに、「寝つきが悪い(睡眠不足)」と「周囲の目が気になる」が3割を超えた。

(寝つきが悪い(睡眠不足):男性 34.8%、女性 35.9%、周囲の目が気になる:男性 30.1%、女性 35.0%)

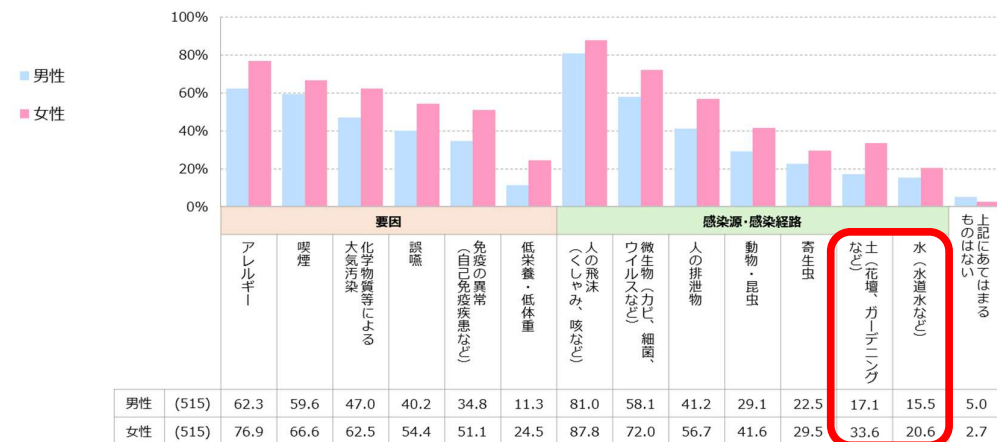


■呼吸器疾患発症の要因や呼吸器感染症の感染源・感染経路の認知

Q:(感染症も含む)呼吸器疾患発症の要因や呼吸器感染症の感染源・感染経路となる可能性があるもので、知っているものをすべて選択してください。

呼吸器疾患発症の要因や呼吸器感染症の感染源・感染経路に関する全ての項目の中でトップは、「人の飛沫(くしゃみ、咳など)」で、男女ともに高い認知度(男性 81%、女性 87.8%)であった。

肺NTM症の感染経路と考えられている「土(花壇、ガーデニングなど)」は、男性 17.1%、女性 33.6%、「水(水道水など)」は、男性 15.5%、女性 20.6%と認知されている割合が低かった。



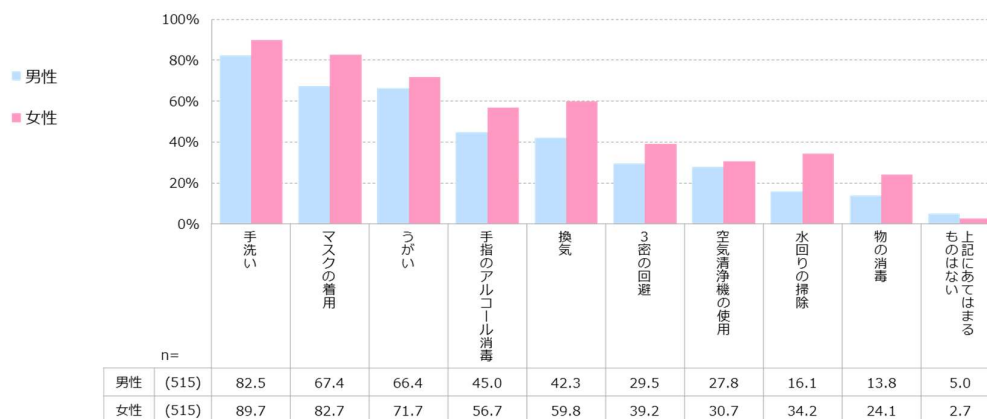


■感染症予防の取り組み

Q:感染症予防のためにご自身が意識して行っていることがあれば、あてはまるものをすべて選択してください。

トップは、「手洗い」の男性 82.5%、女性 89.7%であった。

一方、「水回りの掃除」は、第8位と男性 16.1%、女性 34.2%と感染予防の取り組みとして、低い結果となった。



インスメッドについて

人を第一に考えるグローバルバイオ企業であるインスメッドは、深刻な疾患と生きる患者さんの未来を変える、ファースト・イン・クラスおよびベスト・イン・クラスの治療法の実現を目指しています。当社は既承認薬から、中期から後期開発段階にある治験薬、最もニーズの高い患者コミュニティに提供する先進的な創薬まで、多様なポートフォリオを推進しています。インスメッドの最も進んだ段階にあるプログラムは、米国・日本・欧州で承認された慢性的で衰弱しやすい肺疾患の治療をはじめとする肺疾患と炎症性疾患に関するものです。当社の初期段階の研究プログラムは、遺伝子療法、AI を用いたタンパク質工学、タンパク質製造、RNA 末端結合、合成救済など、幅広い技術とモダリティを網羅しています。インスメッドは、米国ニュージャージー州ブリッジウォーターに本社を置き、欧州や日本において事業を展開しています。インスメッドは Science 誌のトップエンプロイヤーサーバイで 4 年連続 1 位に選ばれ、バイオ医薬品産業で優良企業の 1 つとして認められています。

日本法人概要

会社名： インスメッド合同会社

設立日： 2017 年 12 月 5 日

住所： 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-10-3 東急キャピトルタワー13 階

<https://insmed.jp/>

Insmmed®, Insmmed logo and インスメッド® are registered trademarks of Insmmed Incorporated.